みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長　伊 藤 守 弘

宮城梅花　令和５年．５．31　発行　第56号

発行所　曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字楢町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803

水鳥の
往くも帰るも跡絶えて
されども道は
忘れざりけり

高祖常陽大師道元禅師御詠歌
第二番

『写真と歌詞』
元梅花流特派師範
眞源寺住職　齋藤　政裕

齋藤政裕先生には、今年も素晴らしい写真と文章を賜りました。

写真とテーマ解説の全文は、６ページに掲載させて頂きましたので、ぜひご覧下さい。

御挨拶

宗務所梅花講長
伊藤守弘

緑樹青々として万物長養する好時節、講員の皆々様方には愈々ご清祥のことと拝察申し上げます。常日頃から宗務所梅花講について、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

昨年十二月前所長三田村道雄老師が任期満了により退任され、役職員も一部変更となりました。私は前所長の後任となりました伊藤でございます。清水梅花主事は再任しておりますので、今後も四年間は従来通り宜しくお願い申し上げます。

四年目を迎えたコロナウイルスもやっと終息に向かい、三月にはマスク着用が任意となり五月連休明けからは、感染症レベルが五類に引き下げられると言うことで安堵しているところであります。振り返りますとこの三年間はほとんどの事業が中止や延期となり、講員各位にはご迷惑やらご心配やらおかけしてまいりました。

宗務所業務を引き継いだ昨年十二月は未だにコロナ禍中であって、事業再開に対しての賛否両論がありました。しかし、県内外の関係団体と情報を交換しながら、本年二月に開催予定であった一泊二日の梅花特別講習会を、三年ぶりに開催することが出来ましたことは、主催者として大変嬉しく思いました。所内でも参加者がまとまるかどうかの心配はありましたが、全体で百名を超える講習会となり、参加された講員様方にも大変好評でありました。

また、令和五年度の事業計画及予算案が、去る三月十六日「宗務所定例所会」が開催され、上程した議案は全て御承認をいただいておりますが、ウィズコロナ・アフターコロナと言われる時代であります。コロナ禍以前を懐かしむよりも、新しい社会の生活様式を見据えながら、従来の事業にこだわらず柔軟に対応し事業を展開して行くべきと思われます。

五月には梅花全国大会が東京で開催され、宮城県からは一五六人の参加が予定されておりますし、六月の梅花特派講習会は多少の変更はあるものの開催致します。延期しておりました梅花流創立七十周年記念県奉讃大会は十月に開催を予定しており、現在関係の方々と協議をしながら鋭意準備を進めているところでありますのでご期待いただきたく存じます。師範養成所（初級・上級）や師範研修所、検定会は通常通りの実施を予定しており、宗務所講習等は各教区の希望に応じて開催してまいります。

コロナ禍中は、各講長様方や寺族様方、また講員様方同志の縦横の御縁（えにし）が希薄になり、活動も停滞してしまいました。これからは旧に倍して梅花流が輝きを増し、「お誓い」の如く、正しい信仰に生き、仲よい生活をし、明るい世の中をつくることを目指し、是非新しい講員様方をお迎えする為のアクションを含めて、共々にご精進されんことをご期待致します。更には、各講の益々のご発展と講員皆様方のご多幸とご健勝をご祈念申し上げご挨拶と致します。

○宗務庁発行
「梅花流七十周年記念誌」より転載

梅花流による救い

取材・協力
梅花流特派師範　宮城県宮殿寺住職　永松隆賢

宮城県南三陸町の古刹、大雄寺。
東日本大震災では、樹齢三百年ともいわれた
参道の杉並木八四本が津波により枯死。全て伐採されました。
その大雄寺梅花講で詠讃歌を学び、
震災後は仙台で暮らしている佐藤京子さんにお話を伺いました。

四〇人程の仲間といつも楽しく活動していた平成二三年三月十一日、東日本大震災の大津波が志津川の町を襲いました。家を流された佐藤さんが避難する途中に見た町の様子は、まるで地獄絵だったといいます。

震災直後、小学校には八百人以上が避難していました。佐藤さんも班長として運営に協力しながら十一日間を過ごしました。食料も乏しく、不安や苦しさ、我慢がぎりぎりの状態。それは、一部の人たちの態度や言葉に表れました。生き延びた飼い犬と寒い外で避難している人への罵るような暴言。泣き止まない赤ちゃんと若い母親への容赦ない非難。心ない言葉を幾度も耳にし、やるせない悲しい気持ちになったそうです。当時の憤りが蘇り、語気荒く話してくれました。

慣れない仙台での生活でも、人間の冷酷さを感じた時があるそうです。「だからこそ御詠歌の言葉をもっと知ってもらいたい。『心の闇を照らす』という意味を知っていただきたい」と、声を絞り出した姿が印象的でした。

移住後、仙台で梅花講のあるお寺を紹介してもらいましたが、次第に足が遠のき、教典を開くこともなくなっていったそうです。

今回の取材の依頼があった時、久しぶりに「お唱えしよう」という気力が湧いたといいます。お作法を思い出しながら、丁寧に法具を解き『聖号』から『三宝御和讃』へ。思った以上に自然に声が出て、改めて歌詞をかみしめたそうです。

「相手を罵る言葉、他人への配慮のない言葉、人間が発する言葉にはいろいろあります。だからこそ、これからも命をつなぐ言葉として梅花流の歌詞を身近に感じていたい。つらいことも悲しいことも、いろいろ経験するこの世ですが、御詠歌の言葉に照らされて、『私は元気ですよ』と夫や御先祖さまへメッセージを送ることが生きがいです」と、明るく笑顔で教えてくれました。

久しぶりに志津川を訪れた佐藤さんに、かつての仲間たちが会いに来ていました。み仏が結んだ絆に出会えた、心温まるインタビューとなりました。

震災直後の大雄寺杉並木

宮城県石巻市雄勝町の瀧泉院。津波で本堂庫裡が全壊し、当時の住職は犠牲となってしまいました。お墓参りの檀信徒のため、平成二五年に宗門が寄贈したプレハブは現在も同じ場所にあり、本堂再建の見通しはないそうです。令和三年十月一日、瀧泉院梅花講の六名に、縁のある耕徳院に集まっていただきお話を伺いました。

練習は週に二回。寺族の高橋ちよ子さんが亡くなってからは、ベテランの講員さんがまとめ役となり自主的にお稽古をする活発な講でした。若手の勧誘も積極的に行ない、五人ほどが一緒に入講するという風習がありました。

講では、お地蔵さまの帽子や前掛け作りも先輩講員さんが教え、縫い方や型紙が伝承されていました。お盆や浜供養などの行事で詠讃歌を唱える時も、先輩講員さんはとても頼もしい存在でした。

三月十一日も練習日でしたので、法具を準備していたところに地震が発生し、携帯電話だけを握りしめて高台に逃げました。命は助かりましたが、津波で家も何もかも流され、同時に、伝承されていたものも失われてしまいました。

しばらくして、支援物資の中に梅花服や法具があり、とても嬉しかったことを覚えています。「また御詠歌が出来る、生きている」と励まされました。しかし、避難生活の中で仲間がバラバラになり、その後全くお会いしていない人もいます。

石巻市内に移住した私たちは、耕徳院で詠讃歌の指導を受けるようになりました。縁が途切れず、集まるきっかけとなっているのは梅花流のおかげです。震災後の心の支えであり、毎月の楽しみでした。今はコロナ禍で中断していますが、再開を心待ちにしています。

瀧泉院梅花講には、現在十五名の講員が登録されています。また全員が集まってお唱えする日が訪れることを祈りながら取材を終えました。

瀧泉院梅花講のみなさん

梅花流で被災地にエール

東日本大震災をきっかけに「歌声で捧げよう祈り届けようまごころ」をテーマに、詠讃歌を通じて被災地支援を行なう「スマイルアゲイン梅花のつどい」が、有志の梅花流師範により開催されてきました。

つどいでは、詠讃歌を奉詠して災害物故者追悼と被災地復興祈願を行ない、毎回参加協力金を曹洞宗義援金に寄託しています。全国各地で開催され、累計は約一千万円になりました。

梅花流詠讃歌を通して被災地に寄り添うその活動は、「お誓い」の実践に他なりません。道心利行の浄行に対し、梅花流創立七〇周年に当たり曹洞宗管長より感謝状が贈られました。

笑顔でエールを送る参加者
平成30年滋賀県正傳寺会場

梅花流に出会いて

阿部正子（宮城県気仙沼市 補陀寺梅花講）

私が梅花講に入講して早十年になります。

東日本大震災で弟一家を失いました。姪も犠牲になり、その葬儀で静かに流れていた御詠歌に心惹かれました。かけがえのない弟一家が、一瞬のうちにいなくなり悲しみにくれていた時のことです。

その後、我が家の菩提寺である補陀寺を訪れた際、姪の葬儀の様子を話しましたら「補陀寺でも御詠歌をしていますよ。弟さんたちのご供養にどうですか」と奥様先生に勧められました。

八〇歳になっていましたが、少しでも供養になればと入講させていただきました。仲間の皆さんも快く迎えてくださいました。

入講はしたものの、ついて行くのがやっとでした。月二回の練習会では、本堂で「本尊上供」をお勤めして、方丈様にありがたい法話を頂戴します。その後、庫裡で奥様先生から御詠歌のご指導を受けます。法具の取り扱い、作法など、懇切丁寧に教えていただきました。音程、拍などを教えられたのですが、普通の音楽とは違って、み仏に通じる御詠歌なので難しかったです。講習会などにも参加して、少しずつ習得していきました。

全国大会は、幕張メッセから熊本まで、欠かさず参加させていただきました。福井の時に大本山永平寺を参拝し奉詠しましたのはありがたい思い出です。

オープニングにみんなで唱和する「お誓い」は素晴らしいと思います。『坐禅御詠歌(浄心)』のお唱えに心が落ち着きます。皆さまとの触れ合いや全国の方たちの日頃研鑽を積んだ御詠歌の奉詠に元気をいただけます。歌手や郷土芸能などの清興を鑑賞、大会の前後には名所などを見学し楽しい旅になります。

検定も受検しました。なにせ八〇歳の手習いです。時には先生に「阿部さん、自分で作曲してはダメですよ」と注意を受けながら精進してきました。おかげ様で八七歳十ヶ月で三級教範を取得しました。奥様先生のご指導のおかげと、一緒に勉強した仲間の支えと深く感謝しています。

阿部正子さん　阿部陽子さん

正子さんのお唱えを聞いているうちに娘の陽子さんも入講し一緒に活動しています

特に思い出深いのは、権大教導の課題だった『無常御和讃』です。同期五人のうち、私を含め三人が夫に先立たれていました。一人の方が、御主人を亡くされて日が浅かったので、詞の意味の深さに心うたれ練習のたびに涙した日々が昨日のことのように思い出されます。生ある者はかならず死んで逝くとわかっていても、ともに暮し過ごしていた家族との別れは本当につらく悲しいものです。人生は無常です。

八〇歳まで病気ひとつしませんでしたのに、この十年で二度も大きな病気に罹りました。無事に快復できましたのも、御詠歌のおかげと御先祖さまのお守りのおかげと思っています。もうすぐ九〇歳になりますが、まだまだ元気です。新型コロナウイルスが蔓延し、人びとを苦しめています。どこへ行ってもマスク顔しか会えないなんて……。皆さんの明るい笑顔に会いたいです。コロナ禍で、梅花の集まりがないのが残念ですが、早く終息して、また仲間とともに御詠歌が出来るよう待ち望んでいます。

表紙説明

「水鳥の往くも帰るも跡絶えて
　されども道は忘れざりけり」
高祖常陽大師道元禅師御詠歌　第二番

『キョロロロー』遠くで何度も聞こえる奇妙な声。昨年の梅雨前の夕刻、自宅近くの深い谷筋からこの声が聞こえてきました。アカショウビンの声です。その特異的な鳴き声は、何度も耳にしていましたが、その声にも増して特徴的な全身真っ赤なその姿はほとんど目にした事はありませんでした。翌日夕刻、前日に声の聞こえた谷近くの小さな貯水池に、カメラを構えていると、突然この鳥は現れました。猛スピードで横一文字に、そして音もなくこの鳥は現れました。まるで赤い稲妻のようです。大きく長い嘴をはじめ爪の先まで真っ赤です。十秒程小枝に止まり、首を左右前後に振り、そしてまた、突然画面から消えました。翌日からその特徴的な声は聞こえてこなくなりました。きっと渡りの途中に一時的にこの地に降り立ったようです。

この鳥は、主に東南アジアやインド等で冬を過ごし、夏季、日本や韓国に移動し、主に深山幽谷の環境で繁殖します。水辺を主な生息域とし、小魚やカエル、昆虫などを、小枝から電光石火の如く飛込み捕まえる名ハンターで、典型的な水鳥です。

自ずと「梅花高祖二番」の歌詞が浮かんできました。

「水鳥の往くも帰るも跡絶えて
　されども道は忘れざりけり」

本来身に備わった本能とはいえ何十万何百万という水鳥が、自らの道程を間違わず飛来し、生息繁殖するこの摂理と不思議さ。私達人類にも本来目指すべき尊い道があるはずです。それがまさに仏法なのではないでしょうか。しかしながら、昨今の社会情勢、数々の凶悪事件、どうしようもないような世界情勢、戦争、まさに本来の人間の道を踏み外しているが如きではないでしょうか。

この見事な赤い鳥アカショウビンも、これから適切な環境の地を捜し、素敵な伴侶を得て繁殖をし、子育てしそしてまた秋には、多くの家族を引き連れて東南アジア方面に移動するのでしょう。本来の道を忘れず。その行程の無事を心から祈るものです。

合掌

元梅花流特派師範
眞源寺住職　齋藤政裕

合格おめでとうございます

令和四年度は宗務庁検定で次の方々が合格されました。

三級師範
大崎市　石雲寺　宮本貴心

一級教範
美里町　皎善寺　斉田克子

二級教範
丸森町　瑞雲寺　伊藤まさ子

宗務所検定会お知らせ

今年度も二会場で開催致します。十分勉強されてから、受検して下さい。

・十一月七日(火)石巻市　法山寺様
・十一月十五日(水)～十七日(金)　宮城県宗務所

○検定料お一人　四千円

宗務所講習会

今年度も奇数偶数教区を問わず、希望教区にて開催します。

検定級階一部廃止のお知らせ

令和五年四月一日を以て、**権大教導・権中教導・権正教導の検定が廃止となりました。**

変更となった級階ごとの検定種目、課題曲を表記します。

受検級階		大教導	中教導	正教導
検定種目	課題曲及び詠唱	花祭、歓喜、成道、明星、涅槃、不滅、観音、慈光、浄光、地蔵、慈念、無常、月影、追弔、追善及び妙鐘の修得者	梅花、渓声、誕生、菩提、入寂、讃仰及び法灯の修得者	修証義、四摂法、浄心及び紫雲の修得者
	作法・所作	鈴鉦が正確で優れた者	同左	鈴鉦が可なる者

令和四年度特別講習会報告

去る二月二十～二十一日、ホテルニュー水戸屋に於いて特別講習会が、感染状況を鑑みて県内六名の講師陣で三年振りに開催されました。

九十名近くのご参加を頂き、久しぶりに大人数での講習会を皆さん楽しんでおられました。

今年度も開催予定ですので是非ご参加下さいますよう、よろしくお願い致します。

マスクを着用しながらの講習会

令和５年度 梅花流創立70周年記念県奉讃大会

１．期　日　　令和５年10月３日（火）　午前９時受付　午後４時散会予定
２．会　場　　仙台サンプラザ　仙台市宮城野区榴岡５－11－１
３．会　費　　参加費　一人 金5,000円
　　寺院協賛金（任意）　一口 金10,000円
４．〆　切　　７月31日（予定）

清興　南こうせつさんミニコンサート

☆詳しい要項は後日各講宛ご案内いたします。
☆申込後の会費の返却はいたしません。

登壇奉詠課題曲

★予定です

登壇順	教　区	課　題　曲	頁
1	養成所	太祖常済大師瑩山禅師御詠歌（紫雲替節）	45
2	1・2・㉑	彼岸御和讃（1・2番）	201
3	3・7・⑧	大聖釈迦如来成道御和讃（1・3番）	81
4	9・⑩	地蔵菩薩御和讃（1・3番）	109
5	12	地蔵菩薩御詠歌（慈　念）	113
6	4・⑤	観世音菩薩御和讃（1・3番）	97
7	13	追善供養御和讃（1・4番）	227
8	6・⑲	高祖道元禅師学道御和讃（1・4番）	161
9	14・15・⑯	盂蘭盆会御和讃（1・3番）	209
10	11	盂蘭盆会御詠歌（迎　火）	213
11	17・18・⑳	誓願御和讃（全　曲）	261
12	師範・詠範	達磨大師御和讃（1・4番）	117
		達磨大師御詠歌（廓　然）	121

☆　教典頁は、平成28年改訂第五版のものです。
☆　○印は、合同登壇される組の、詠題・詠頭 担当教区です。